

第9回ビバホールチェロコンクール

西方正輝さんが第1位



な若きチェリストの演奏を聴こうと大勢の観衆が見守る中、8人が熱のこもった演奏を披露しました。演奏終了後、審査員（堤剛審査員長ほか7人）による審査が行われ、初出場の西方正輝さん（21歳）が第1位に選ばれました。堤審査員長は「まず、



堤剛審査員長

コンクールを開催いただいていることに対して感謝申し上げます。このコンクールは、国内のどのコンクールと比べても恥ずかしくないレベルになっています」と講評されました。

入賞者は次のとおりです（敬称略）。

- ▼第1位／西方正輝（千葉県船橋市）
- ▼第2位／伊藤文嗣（東京都豊島区）
- ▼第2位／加藤陽子（東京都文京区）
- ▼第4位／吉岡知広（宮城県仙台市）
- ▼第5位／矢口里菜子（東京都西東京市）
- ▼第6位／三井静（神奈川県横浜市）
- ▼井上賞／山本直輝（東京都台東区）
- ▼井上賞／長瀬夏嵐（群馬県高崎市）

※2位は、二人の入賞です。

ビバホールに響くチェロの音色

第9回ビバホールチェロコンクールが7月21日から25日、54人のチェリストが出場し開催されました。

ビバホールチェロコンクールは平成6年から隔年で開催され、国内はもちろん、海外からも参加者を集め

る世界でも数少ないチェロ単独のコンクールです。同コンクールに出場後、世界の音楽界へ羽ばたいた若手チェリストも多くいます。

第9回コンクールは、7月21日と22日に1次予選が行われ、出場者54人から2次予選出場者22人を選考。7月23日の2次予選では、本選出場者8人を決定しました。

7月25日の本選では、将来性豊か



入賞した8人のチェリストの皆さん

30歳までに 世界一のチェリストに

第1位に輝いた西方正輝さん（東京芸術大学音楽学部4年）は、「本当にうれしいです。このコンクールは日本音楽コンクールに並ぶ大きなコンクールで、3年前から目標にしていた。今日の演奏は、持てる力を出しきることができ、満足しています。今後の目標は、30歳までに世界一のチェリストになること」と喜びと抱負を語ってくれました。

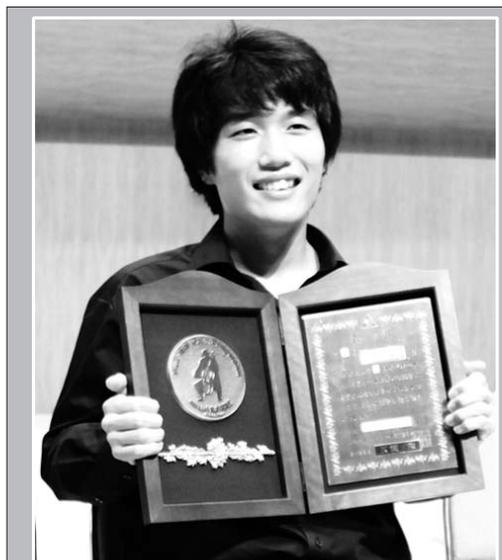
また、来年には第1位受賞記念チェロリサイタルを養父市と東京で開催します。西方さんは「リサイタルでは、自分の持ち味を出したプログラムを作って臨みたい」と話して

コンクールを支えた市民 ボランティア

くれました。

このコンクールは、若手チェリストの登竜門として高い評価を受けていますが、それと同時に、企画から運営、ホームステイの受け入れに至るまで、ほとんどを市民ボランティアによって支えられていることに大きな意義があります。

今回は出場者54人のうち34人のチェリスト、17人のピアノ伴奏者がホームステイをしました。第1位の西方さんもホームステイでコンクール期間を過ごし、「ホームステイ先ではすぐリラックスでき、最高のコンディションがつけられました」と喜



第1位の西方正輝さん

んでいました。

ボランティアで出場者支援係を担当した山崎たみ子さん（三谷）は、「受付は、出場者が最初に着くところ。笑顔で出迎え、少しでも出場者の緊張を和らげてあげられるよう心がけました。若手のボランティアも増え、意気込みをすごく感じられます。やはり、「ありがとう」の言葉が一番うれしいです。今後もボランティアとしてコンクールのお手伝いを続けたいです」と話されました。



様々な場面で出場者の支援などをするボランティアのみなさん

また、ホストファミリーとして出場者のホームステイを受け入れられた大谷逸子さん（十二所）は、「出場者に良いコンディションで演奏してもらうため、食事などで気を使うこともありました。私だけにコンクールの課題曲を演奏してくれ、大変、感動しうれしかったです」と話されました。

100人を超えるボランティアやスタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした。